

(発信元: 関西大学広報課 TEL:06-6368-0201 FAX:06-6368-1266)
※本リリースは、堺市からも同時配信しております。

報道提供資料

2019年4月17日提供

問い合わせ先	
担当課	文化観光局 文化部 文化財課
担当者	鹿野、中村
直通	072-228-7198
内線	4650
FAX	072-228-7228

関西大学と堺市による4年間の共同調査 堺鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家の古文書を調査した報告書を刊行しました — 6月に記念講演会を開催 —

堺市堺区北旅籠町西1丁に所在する井上家は江戸時代を通じて鉄砲生産に関わった家柄として知られています。井上家住宅は江戸時代前期の建築で、鉄砲鍛冶屋敷とも呼ばれ、鉄砲の生産現場が残されている全国唯一の建物です。

堺市と関西大学は、平成27年度より4年間にわたり、鉄砲鍛冶屋敷に伝わる古文書の共同研究調査を実施し、このたびその成果の一部を報告書として刊行いたしました。

井上家の資料群は江戸時代から明治時代にわたるもので、2万点を超える資料があることが判明しました。鉄砲の注文から代金の引き渡しに至る江戸時代の鉄砲ビジネスの仕組みが初めて明らかになるなど、日本の鉄砲生産の歴史を書き換える貴重な成果を得ることができました。さらに、堺はこれまで近世の鉄砲産業の中心であることは伝えられていましたが、はじめてそれを具体的に裏付ける貴重な資料が多数発見されました。

また、これらの成果を広く日本全国に発信するため、6月には堺市制施行130周年記念事業として関西大学東京センターで講演会「蔵のとびらを開いてみれば—堺鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家を未来へ—」を開催します。

記

報告書について

名称 堺鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家資料調査報告書

A4版 271ページ (うちカラー24ページ)

平成31年3月発行 堺市・関西大学なにわ大阪研究センター

内容 本文編・別編

資料口絵、藪田貫関西大学名誉教授・黒田一充関西大学教授などによる論文、コラム、資料翻刻など

※堺市内の図書館等に配架予定



調査成果

- ・2万点を超える古文書などの資料が発見され、江戸時代の日本における鉄砲生産の全容が初めて明らかになった。その結果、江戸時代に鉄砲生産は衰退したという通説を覆す事実が判明した。
- ・鉄砲の注文から引き渡し、代金の決済までが記されている業務帳簿の分析によって日本で初めて江戸時代の鉄砲鍛冶のビジネスの実態が明らかになった。
- ・堺は、これまでも近世の鉄砲産業の中心であることは伝えられていたが、今回の調査によってはじめてそれを具体的に裏付ける貴重な資料が多数発見された。
- ・江戸時代の堺の町の様子や、暮らしぶりがわかるさまざまな資料が発見された。堺旧市内では最大の資料群であり、空襲を免れて今日まで伝えられた資料として貴重。

講演会について

名称	堺市制施行 130 周年記念・堺市と関西大学との地域連携事業 「蔵のとびらを開いてみればー堺鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家を未来へー」
概要	報告書の編纂に携わった専門家を招き、鉄砲鍛冶屋敷資料の持つ歴史的価値などについて講演いただきます。
日時	令和元年 6 月 29 日（土）午後 1 時 30 分～午後 4 時
場所	関西大学東京センター（東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー9F）
申込方法	往復ハガキで申込（定員 200 名）受付 1 通につき 1 名まで 令和元年 5 月 31 日（金）当日消印有効 堺市堺区南瓦町 3-1 堺市文化財課まで
内容	講演 1 「堺ってこんなところ」 関西大学文学部教授 黒田一充 講演 2 「蔵のとびらを開いてみればー堺鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家を未来へー」 関西大学名誉教授・兵庫県立歴史博物館館長 藪田貫 ※当日は、会場で鉄砲鍛冶屋敷井上家資料の一部を展示いたします
主催	堺市・関西大学

以 上